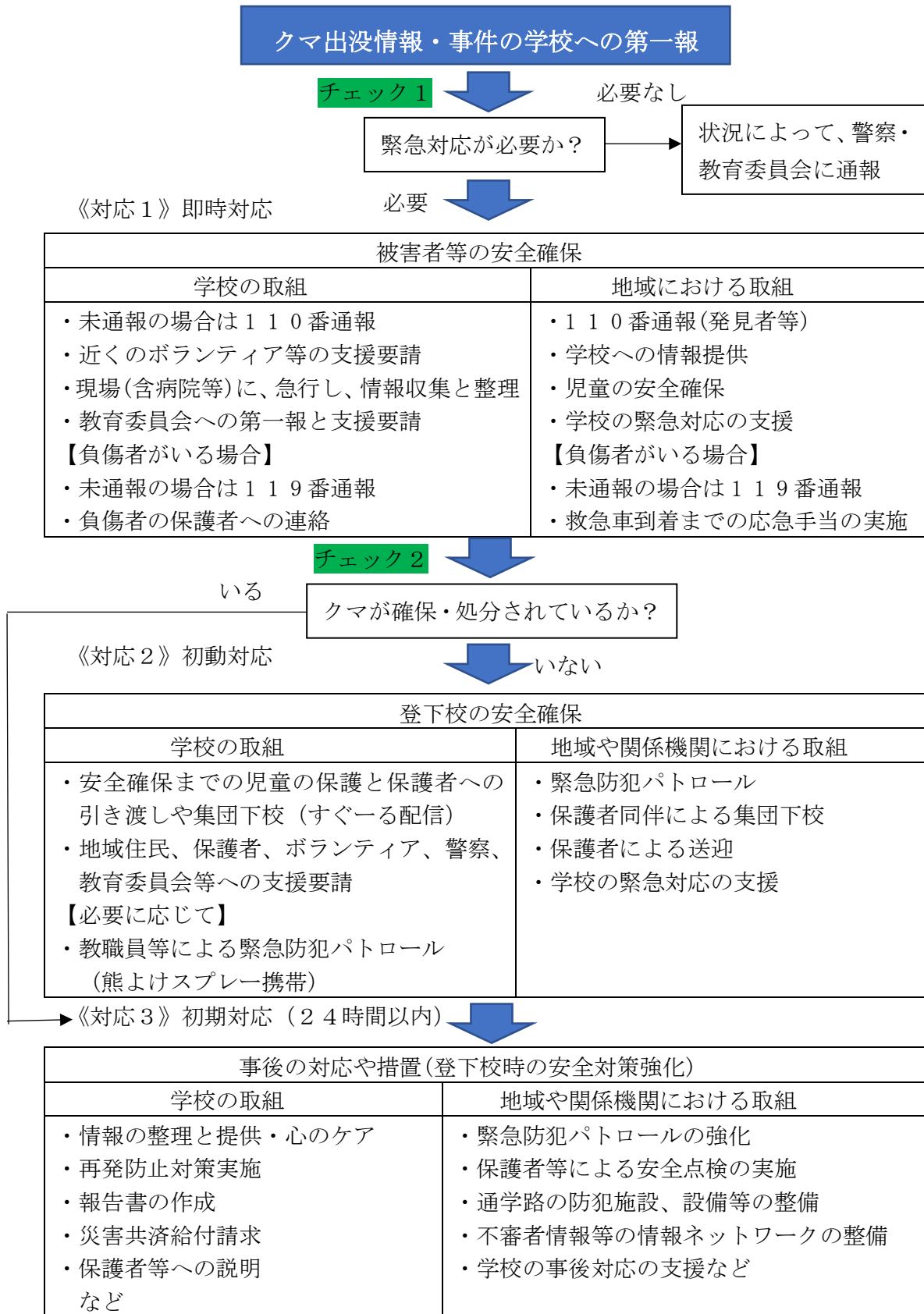


■クマ出没時の対応



### 学校における対応

- ◎ 普段から保護者・地域・関係機関とクマが出没した際の対応を協議しておく。
  - ・ 校舎近辺の草木を切って、明るく、見通しを良くしておく。(●)
- ◎ 巡回・立哨・出迎え等の時間や役割分担、位置等を決めておく。
- ◎ 保護者への連絡（すぐー等）
  - ・ 保護者による付き添いや見守り等の依頼など (●)
- ◎ 熊よけ鈴・熊よけホイッスルの装着確認等
- ◎ スクールガードへの協力依頼
- ◎ 出没場所が学校近くの場合は・・・
  - ・ 朝・夕の大音量での放送による追い払い
  - ・ 雷管・爆竹・ロケット花火による追い払い（近隣住民への周知が必要）
  - ・ 1人で行動しないで、複数体制で対応する。
  - ・ 業間時間や昼休みに、子どもが校庭にいる場合は、音楽を流すと共に職員が観察する。
  - ・ タクシーの必要性判断
- ◎ 熊を目撃した児童から、目撃場所等の詳しい内容の聞き取り

### 子どもへの指導

- ◎ 1人で行動しないで、友達と一緒に行動する。
- ◎ 集団登下校の指導
- ◎ 携帯品の指導
  - ・ 熊よけ鈴・熊よけホイッスルの装着
  - ・ 空のペットボトル（パコパコという音が嫌い）
- ◎ 食べ物を持ち歩かない。
- ◎ クマを見かけたら、近くの大人やどこでもいいので近くの民家に保護をお願いすること
- ◎ 屋外での遊びの指導（山や藪などでの遊びは控えること）
- ◎ クマが近くにいるサインがあったら、その場から離れる。
  - ・ 糞がある。（人間と同じかちょっと大きめ）
  - ・ 足跡がある。（幅は成獣で7～13 cm）
- ◎ もしも、クマに出会ってしまったら・・・
  - ・ 背中を見せて走って逃げないで（本能的に襲ってくる）ゆっくりと後ずさりして離れる。
  - ・ カバンなどの持ち物を置いて、それにクマが気を取られている隙に逃げる。
  - ・ クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒などを投げつけたりしない。

### クマの習性（猟友会より）

- 6月から10月頃までの出没が多い。
- トウモロコシ、ブルーベリー、桑の実、リンゴ、カキ、クリ、ドングリなどを好んで食べる。
  - ※そのほか、家庭で排出する残飯なども好む。
- 畑に出てきたクマに襲われることがある。
- エサを求めて移動する。
- 熊の繁殖期（7月～8月）にはオスの行動範囲が広くなり、子連れのメスは性格が荒くなる。
- 草木を切って明るくするとよい。熊は暗いところに出る。
- 脅すと、怖がって襲ってくる。
- 子連れの場合、何も無いところに出て、子グマが遊んでいることがある。
- 出没は夕方から朝方にかけて多くなる。
- 行動範囲が広いが、出没場所は同じ場所が多い。
- 驚いた場合は、パニックになりどこに向かうかわからない。
- 子熊を見ても絶対に近づかない。
- 夏の暑いときは、川で遊んでいることがある。
- 嗅覚がものすごく敏感で、においにつられて来ることがある。